

平成 29 年度

第 4 回

亀山市立図書館整備推進委員会会議録

平成29年度 第4回亀山市立図書館整備推進委員会会議録

日時 平成30年3月29日（木）午後2時30分開会

場所 亀山市総合福祉センター「あいあい」2階 大会議室

出席者 服部教育長、横山委員長、中井副委員長、川口委員、豊田委員、鈴木委員、片岡委員、桑名委員、川辺委員、栗本委員、坂口委員、亀淵委員、嶋村委員、松本委員、佐久間委員、大澤委員

欠席者 若菜委員・山本委員・上田委員

事務局 亀山市教育委員会生涯学習室 亀山室長、小坂、駒田
亀山市立図書館 井上館長、駒田
㈱東畑建築事務所名古屋事務所 高木設計室長、柱主任技師

傍聴の承認

【事務局】 傍聴者について承認いただけるか。

【一同】 異議なし。

【事務局】 傍聴を認める。
(傍聴者1名)

■開会

【事務局】 第4回亀山市立図書館整備推進委員会を開催する。配布済の資料を確認する。

1. あいさつ

【教育長】 第1回から短い期間ではあったが、ここまでこられたのは委員の皆さんの活発なご意見のお陰である。本日は図書館整備基本計画の全体像をお示ししているのでご意見いただきたい。

人事異動により、図書館に正規職員の司書がいなかったが、現場経験のある司書資格を持った正規職員が4月より図書館に着任

することとなった。新しい図書館整備に向けてできるところから動いていきたい。

【横山委員長】

図書館が完成するまで委員会は続くが、一つの節目として基本計画案が提示されている。内容の決定へ向けて議論を進めていきたい。

2. 会議録・委員意見の確認

【横山委員長】

事前に配布された「第3回 亀山市立図書館整備推進委員会会議録」について、修正等があれば教えていただきたい。

【横山委員長】

何かお気づきの点があれば事務局の方へお願いしたい。次に、本日欠席の若菜委員、及び川辺委員から意見をいただいている。この件に関して説明等あればお願いしたい。

【事務局】

「第3回亀山市図書館整備推進委員会委員意見」により事務局説明。

【横山委員長】

川辺委員のご意見の中に、滋賀県高島市の施設規模や資料・人的配置との比較が挙げられているが、出典はどこか。

【川辺委員】

市議会でのある議員の方が調べられたもので、図書館協会の資料であったと思う。図書館協会による評価ランキングでは同人口規模では先進的と評価されている。

【横山委員長】

高島市の図書館に行ったことがあるが、5町1村の合併に伴って従前の図書館がそのまま運営されている。数字だけでは判断できない。自治体のおかれている状況が違う部分もあるので、そのあたりをふまえて比較をしていくことが重要と思われる。

3. 報告事項

(1) 最新の図書館の状況について

<中井副委員長から「にぎわいのある『場』としての図書館」について講義>

【中井副委員長】

図書館学では図書館を「成長する有機体」と表現することがある。図書館単体ではすべてのサービスを網羅することができないと考えており、他の施設などつながってサービスを提供すべきと考え、第4回ワークショップで紹介した事例をお示しする。

○島根県海士町「島まるごと図書館構想」

島全体が図書館として機能する事例である。中央図書館と13館の分館で構成されているが、分館は本棚1つのところもある。民間施設も含めて町が管理しており、図書の入替えなどを行っている。近年、島にターンする人が増え、島留学として日本全国

や海外から高校生も集まっている。その中で図書館の設置要望が出たが、資金がないため、3つの小中学校に司書を派遣し、学校図書館を公共図書館として位置づけることから始まった。その8年後に中央図書館が整備されたが、200㎡程度しかないため、小中学生向けの本は置かず、学校と蔵書の分担を行っている。

14館の調査を実施し、複数図書館を利用されていることが多いことが分かった。課題としては、1ターン組の方の利用率が高いが、旧来の住民の利用率は低く、使い方に差があることである。改善策として、100円を入れるとインスタントコーヒーが飲めるセルフカフェサービスを導入し、利用率が上がってきた。こういった本来の目的以外の利用を「充実利用」と名付けている。島の子どもは1人あたり100冊も本を読んでおり、小中高生の読書環境を町がサポートしている。

○愛知県瀬戸市 学校図書館の活用事例

中学校区毎に1つの学校図書室を、地域図書館として土日開放している。児童書と一般図書が並列しており、どちらも借りることができる。瀬戸市は中央館が狭いため、周辺自治体の図書館を利用されている傾向がある。地域の学校図書館を利用する人は本館も利用する傾向が高い(50%程度)ため、しっかりとした本館を整備することは周辺との連携上重要である。

学校図書館の調査として、日進市、飛島村の小中一貫校の事例を調査している。学校図書館を使う子どもは公共図書館も利用しており、その利用の相関関係は非常に強い。子どもに身近な学校図書館をベースとして徐々にステップアップする。中学生になると読書習慣がなくなる傾向があるが、子どもの頃からサポートすることが重要である。公共図書館だけでなく、公共施設や学校などと有機的な連携が重要と思われる。

まとめとして、「にぎわいの創出」も重要だが、図書資料を提供して地域の課題を解決し、地域の歴史や文化を記録することも重要である。

【横山委員長】

海士町の事例は非常に注目されている。高齢化、過疎化などの課題に対して町が一丸となり施策を実行している。社会教育は図書館だけでなく、地域全体で考えるべきである。限られた予算の中では、連携や活用をすることで大きな効果を生み出すことができる。市単体だけでなく、近隣市域との連携も含めて検討していく時期ではないか。

4. 協議事項

(1) 亀山市立図書館整備基本計画案について

＜事務局より説明＞

- 【横山委員長】 かなり見やすくなった印象を受けるが、5月の公開を目指して最終確認の意味合いでご意見をいただきたい。
- 【川辺委員】 分かりやすい構成だし、これまでの経緯がよくわかる。
3頁下から5行目の利用者の中に「子ども」を加えてはどうか。
- 【片岡委員】 見やすくなり、図書館本来のあり方を中心にどう附帯機能を加えていくかという整理がついたと思う。子どもや保育の視点で、子どもが親と一緒に来やすい、今の子ども用スペースよりももっと充実した空間を整備し、楽しい思い出をたくさんつくって将来の図書館利用につながるようになってほしい。
- 【坂口委員】 実現できれば非常に魅力的だが、第6章の事業費・運営費・人件費を見ると市として厳しい大規模な予算や人員配置であると感じる。規模としては適正かもしれないが、亀山市としてうまく運営できるかの判断の検証が重要になると思われる。どの機能を重要とするのかも検討すべきと思う。
- 【横山委員長】 効率的な運営についても議論する時期がくると思う。
- 【鈴木委員】 人々が訪れやすい機能を持たせると、セキュリティの問題も出てくる。駅前ということで、これまで利用していない人の利用が期待されるが、駐輪・駐車スペースの確保を図書館単体でなく駅前整備全体で検討していく必要がある。地域の特色を活かして、亀山らしい、何かいちばんとして誇れるものを盛り込んでいただきたい。
- 【横山委員長】 セキュリティは重要であり、それとともに図書の破損なども問題となっている。そうしたことへの対応も必要だ。
- 【豊田委員】 計画にあたって市民の意見を聞いていただき、具体的なイメージが高まってきたが、建設段階でも図書館家具を市民がつくるなど、参加できるようなプログラムがあるとよい。愛称も募集してはどうか。
休館日も原則なくして、いつでも市民の居場所になるとよいがそのためにはボランティアの連携も重要である。
子ども連れの場合、複数人を連れてくる場合が多いので、一緒にAV資料を見れるスペースを確保するなどの配慮があるとよい。
- 【事務局】 たくさんの意見をどう建築に反映していくかはこれからであるが、進捗に合わせて意見交換やワークショップを行い、できるだけたくさんの要望を実現できるように進めていきたい。開館時

間・休館日については未定であり、これからの検討で、どういう主体がどう利用するかを整理し、決めていきたい。愛称なども同様であり、市民の皆さんのご意見をうかがいながら進めたい。

【川口委員】

機能としては整理されたので、具体的な空間としてこれから兼用なども含めての検討を楽しみにしている。

人件費の試算として、非常勤の司書が7名となっているが、ある程度は正規職員として雇っていただきたい。継続的に関わっていただかないと図書館の質が下がるのではないか。早めに募集をかけ、計画と同時進行で進めるべきである。また、学校司書と図書館司書の連携も部署をつくって検討を進めていただきたい。

【横山委員長】

正規職員に司書を含む表記とすればよいのではないか。

【川辺委員】

三重県内の市町において、専任で司書を雇っているのは津市しかない。行政職採用だと異動があるため、専門職採用ですべきである。継続して図書館に関わらないと経験が豊かにならない。

【横山委員長】

博物館の学芸員などでも同様の状況であり、ご検討いただきたい。

【栗本委員】

新しい図書館のキャッチコピーを早めに打ち出し、市民にアピールしてはどうか。

乳幼児連れのアクセスとして、バスの路線網も合わせて検討することで、駐車場の課題も解決できるのではないか。

【事務局】

55頁にも記載があるが、公共交通機関との連携も検討課題である。また、乳幼児連れに配慮した託児・授乳スペースなども確保していく予定である。

【桑名委員】

子どもだけで図書館に来た場合に配慮し、帰りの送迎サービスを地域で担うことができないかと考えている。

駅前付近は朝7時を過ぎると、電車への送迎で車がかなりのスピードで通るため、道路が拡幅された場合に交通問題が懸念される。また、防犯面でも心配である。安全・安心な環境づくりを実現するため、地域住民も協力したい。

亀山への来訪者が駅前に立った時に、他とは違う、足を運んでいただける第一印象を与える施設をつくっていただきたい。参考になる意見をたくさんいただいたので、地域としても勉強していきたい。

【鈴木委員】

今後の経済状況や人口動向をふまえて今後も流動的に検討を進めていただきたい。今は最新の仕様として決定しても、完成時には古いものとなる可能性がある。

【事務局】

31頁下段にあるが、専門的な見地による完成後の図書館サービスや運営のチェック体制を確立し、合わせてシステム構成なども随時更新いきたい。

【川辺委員】

機能やサービスについてよくばって書きすぎているのではないか。他の施設との連携を図りながら計画を進められればよい。例えば観光案内所は観光協会が担えばよいとの整理ができれば、図書館にはスタッフが案内所につなぐスキルを身につければよい。

全ての資料を図書館で用意する必要はないので、図書館単体で担う部分を中心に整理を進めるとよい。

開架スペース内に閲覧席を計画すると思われるが、海外では可動式の書架でスペースを自由につくれる事例があり、実現できればおもしろいのではないか。

【松本委員】

駅前再開発施設の中に図書館が入るが、飲食や観光案内所は別機能として施設の中に入るかたちも想定される。施設全体で検討いただきたい。

【亀渕委員】

68頁の事業費だが、図書館の面積が3,000㎡とあるが、理想は3,300㎡という話もあり、そのあたりのずれが少し気になる。事業費についてはある程度根拠をもって示していただきたい。

【嶋村委員】

第2章で、子どもや親子に重点をおくことについて記載があるのはよいが、21頁の現状の世代別利用者数を見ると、中高生や若年層の利用が少ない。この現状を見据え、この世代に対しての措置を明確に示していくべきではないか。

図書に対する要求が多様化する中で、マイノリティ性が高まっているため、市民のニーズを探り、蔵書や計画に反映することが必要であり、基本計画に盛り込んでいただきたい。

「利用困難者」という表現が気になるので用語を見直したい。

司書については資格や人数が議論されているが、資料の収集、検索、補修、本に関する教養など、多様な業務がある。司書が働きやすい環境をどう実現するかを明記すべき。それが市民へのサービスの還元につながる。書くのであれば1-4-3に課題を具体的に記載してはどうか。

【佐久間委員】

ユニバーサルデザインについて、障がい者への配慮としては車いす、視覚障がい者がよく挙げられるが、聴覚障がい者の方は視覚障がい者よりも多くおられるため、掲示板など配慮した計画をお願いしたい。

【大澤委員】

基本構想から基本計画の流れの中で、市民ワークショップでの議論を重ねて意見を集めてきたが、第3章に対してのつながりがやや薄い印象を受けた。

【中井副委員長】

第3章がボリュームが多いので伝わりにくいのかもかもしれない。

第4章で可変性などをもう少し詳しく記載した方がよいのではないか。可動式書架の話がでたが、地震対策として固定は必要だが、取り外しができるような配慮はできると思う。

地域資料については、「亀山学」という形で蓄積されていくと思われる。

18～19頁の表は、貸出者数を地区人口で割った数値を貸出密度として表現していただきたい。地区ごとの特性を分析することができる。

【横山委員長】

その他ご意見があれば事務局までお願いしたい。大きくはこの方向で進めさせていただきたい。

【川辺委員】

現図書館の課題として、スタッフの不足が図書館サービスに影響している点は明記すべきである。

子育て世代が多い地区は貸出冊数が多いと思うので、学校図書館などとの連携は重要と思う。

行政資料を図書館に導入しないとの記載は納得できない。図書館を窓口として、市役所と連携をする形でもよいので検討いただきたい。

【事務局】

ご意見があれば4月6日までにいただきたい。それを受けてホームページ等で市民に公開して意見をいただき、最終取りまとめを行いたい。

5. その他

【事務局】

次回委員会日程は改めて連絡させていただく。